

2019年度事業計画及び収支予算について

I 2019年度事業計画

九州の中核都市福岡に拠点を置く九州交響楽団は、福岡県から公益法人の認定を受け、国、福岡県、福岡市、北九州市、地方公共団体、産業界、市民からの助成を得て、2019年度も福岡県を中心に公益目的事業として演奏活動を行い音楽文化の普及、向上発展に努める。

なお、公益目的事業は、九州交響楽団が自ら企画・主催する<主催公演>と鑑賞団体、企業、学校などからの依頼を受け出演する<依頼演奏会>に分けられる。

そのほか、収益事業として、コンサート会場等でCD等の販売を行う。

(1) 主催公演

主催公演は、九響自ら企画し、市民に幅広く告知・販売し、公演を行い、クラシック音楽の魅力を市民に伝える公演である。

2019年度は福岡市内で25公演、東京で1公演を実施する。

シリーズものの三本柱として

- ① <定期演奏会> (9公演)
- ② <天神でクラシック> (4公演)
- ③ <名曲・午後のオーケストラ> (4公演)

その他の主催公演として

- ④ <三大交響曲の夕べ> (1公演)
- ⑤ <第九公演> (1公演)
- ⑥ <ニューイヤー・コンサート2020> (1公演)
- ⑦ <九響・春のこどもコンサート> (1公演)
- ⑧ <舞台芸術感動体験事業コンサート(アクロス万人コンサート)> (2公演)
- ⑨ <東京公演> (1公演)
- ⑩ <吹奏楽ジョイント・コンサート> (1公演)
- ⑪ <スペシャル・コンサート> (1公演)

① <定期演奏会>

<定期演奏会>では、九州における歴史あるプロ・オーケストラとして、九響の持つ高い音楽性・実力をクラシック音楽ファンに提供する。これまで九州の地で演奏されることがなかった作品やアジアの芸術家の紹介にも積極的に取り組む。

●特徴として

- (i) 今年度は、アクロス福岡シンフォニーホールが4～5月にかけて改修工事を行うため7月がシーズン開始となる。音楽監督就任7年目となる小泉和裕氏が昨年度に引

き続きマーラーとブルックナーの大作を採り上げる。また、ドヴォルザークのプログラム（1月）や壮大なR. シュトラウス作品をメインとした公演（3月）にも登場する。

- ・マーラー交響曲3番（7月）※九響初演
- ・ブルックナー交響曲7番（9月）

(ii) ベルリオーズ<没後150年>として交響曲「イタリアのハロルド」（10月）を採り上げる。独奏ヴィオラが活躍する作品で、当楽団桂冠コンサートマスターの豊嶋泰嗣がその任を受け持つ。

(iii) アジア系アーティストを積極的に起用する方針のもと、数々の受賞歴を持つシンガポール出身のダレル・アンを招聘し、フランス音楽のエスプリをお届けする。（11月）

(iv) 定期公演初登場の指揮者レーニンガーは、ラテン系作品で夏を演出する。（8月）同じく初登場のブルガリア出身の気鋭ミラノフがプロコフィエフ作品を披露する。（2月）

また、今年度の注目すべき定期公演としてロシアの巨匠ポリヤンスキーが初めて我が国のオーケストラ指揮台に上がり、クリスマスシーズンにお得意のチャイコフスキーを披露する。（12月）

(v) 近年その実力が評価されている九響合唱団は7月のマーラー交響曲3番、11月のフォーレ「レクイエム」に登場する。

② <天神でクラシック>

<天神でクラシック>は、指揮者等のトークを交え、クラシック音楽により親しみを持っていただき普及させることを目的とする。

●特徴として

(i) 若手指揮者を積極的に起用。進境著しい2人の指揮者、川瀬賢太郎と鈴木優人を招聘する。川瀬はショスタコーヴィチ作品（4月）、鈴木は「イタリア」をテーマにプログラミング。（6月）

(ii) ラグビーワールドカップ開催に因みスポーツに関連のある作品をお届けする。

NHK福岡放送局のキャスター佐々木理恵の進行、エッセイストとしても人気の指揮者、茂木大輔が指揮台に立つ。（9月）

(iii) ロングランシリーズ、モーツァルトの誕生日1月27日に開催する「続・モーツァルトをあなたに」では名クラリネット奏者マティアス・グランダーが吹き振りを披露する。（1月）

③ <名曲・午後のオーケストラ>

2015年度から開催している<名曲・午後のオーケストラ>は、子供からお年寄りまで来場しやすい午後2時に開演。有名な作品を集め、多くの市民に楽しんでいただくこと

を目的とする。終演後は演奏者とお客さまの交流の場として「九響交流カフェ」を開催する。

●特徴としては

- (i) 小泉音楽監督は2019年がメモリアルイヤーであるスッペ、ベルリオーズにスポットを当てた公演を指揮する。(6月) また名匠、尾高忠明がお得意のイギリス音楽を披露。(9月) 名誉客演指揮者の小林研一郎はチャイコフスキーの交響曲等で情熱のタクトをとる。(2月)
- (ii) ソリストには今や円熟の弦楽器プレイヤーである前橋汀子(2月)、山崎伸子(9月)が熟達のパフォーマンスを、アルメニア出身マルディロシアンはグリーグの協奏曲で弾き振りの離れ業を披露。(11月) またヨーロッパでの活躍も著しい広瀬悦子がリストのピアノズムを伝える。(6月)

④ <三大交響曲の夕べ>

<三大交響曲の夕べ>は、8月に小中高校生を含む幅広い市民が、極め付けの交響曲3曲「新世界・未完成・運命」を1日にして楽しめる企画としている。

3回目の今年は、鹿児島出身の下野竜也氏が指揮を執り、夏の風物詩として市民への定着を図っていく。

⑤ <第九公演>

2019年度から名曲・午後のオーケストラシリーズから外し、年末恒例コンサートとして独立した公演とする。タクトを取るのは小泉和裕音楽監督、合唱は九響合唱団を中心とした合同合唱団が務め、人気の歌手陣がソロを担う。

⑥ <ニューイヤー・コンサート2020>

新しい年をファミリーで祝い、音楽を楽しめる内容とする。NHK交響楽団第一コンサートマスター“MARO”の愛称で親しまれている篠崎史紀を迎え、ヴァイオリンの弾き振りでシュトラウスファミリーの音楽を中心にウィーンの香りをお届けする。

⑦ <九響・春のこどもコンサート>

子供たちにも音楽の素晴らしさを伝え、未来の音楽ファン開拓をコンセプトに開催する。2013年度から続いている「親と子のためのコンサート」をリニューアル。親しみやすいトークも得意とする岩村力が指揮台に立つ。またNHK「おかあさんといっしょ」にも出演している西けいこを歌のおねえさんとして迎え、親しみやすく楽しい雰囲気音楽会とする。

⑧ <舞台芸術感動体験事業コンサート(アクロス万人コンサート)>

<舞台芸術感動体験事業コンサート>は、アクロス福岡が青少年を対象として企画している公演であるが、2019年度もアクロスと協力し、共催事業として実施する。

⑨ <東京公演>

16年振りの東京公演を敢行する。東京サントリーホールに於いて小泉和裕音楽監督の指揮でベートーヴェンとR・シュトラウスの作品を演奏。ソリストを招聘しないプログラムで九響の実力の真価を問う。(3月)

⑩ <吹奏楽ジョイント・コンサート>

福岡県は吹奏楽が非常に盛んな地域でありながら吹奏楽ファンのオーケストラへの関心度が低いのが現状である。吹奏楽とオーケストラが密接な関係を築くことによる音楽ファンの拡大を目的に、福岡県吹奏楽連盟の協力のもと、吹奏楽ファンにはお馴染みのサクソ奏者である須川展也の吹き振りで吹奏楽部の生徒達との共演を行う。(3月)

⑪ <スペシャル・コンサート>

2019年度はアクロス福岡シンフォニーホールが4～5月にかけて改修工事を行なうため、7月がシーズン初めの定期演奏会となる。このため定期会員の会員継続および新規契約を目的として、2019年度定期会員の方々をご招待するコンサートを開催する。この公演は指揮者を置かずソロコンサートマスター扇谷康朋のリーダーシップで実施する。

北九州市では、以下の4公演を実施する。

北九州市での公演は、福岡県北東部のクラシック音楽普及を目的として4公演を実施する。

① <北九州定期演奏会> (2公演)

② <第九公演> (1公演)

③ <ニューイヤー・コンサート2020> (1公演)

① <北九州定期演奏会>

4月公演は福岡の「天神でクラシック」と同じ内容。北九州市出身、注目のヴァイオリスト中村太地をソリストに迎えショスタコーヴィチの名作を披露する。9月公演は「名曲・午後のオーケストラ」とほぼ同じ内容。同じく北九州市出身で世界的に活躍の場を広げているヴァイオリニストの南紫音が英国作品を演奏する。

② <第九公演>

福岡公演と同じく小泉音楽監督がタクトをとる。合唱は「北九州フロイデコール」がその任を担う。

③ <ニューイヤー・コンサート2020>

福岡公演と同じく北九州市出身の人気ヴァイオリニスト“MARO”こと篠崎史紀がヴァ

イオリンの弾き振りでウィーンの香りをお届けする。

(2) 依頼公演

依頼公演は、＜主催公演＞以外、鑑賞団体、企業、学校などから公演の依頼を受け出演するコンサートである。

2019年度の大きな依頼公演では、2005年度から始まった「福岡県市町村振興協会」主催の中学生を対象とした公演を、引き続き2019年度も39公演実施する。

また2019年度も文化庁の「文化芸術による子供育成総合事業（巡回公演事業）」が採択されたことにより、6月、10月、11月の3回に分けて計10公演を南九州・沖縄エリアで実施する。さらに2019年度はラグビーワールドカップ日本開催にちなみ、公式戦開催地である熊本、大分において、「スポーツと音楽」と題して＜天神でクラシック 音楽プロムナード vol. 35＞と同じプログラムをお届けする。2015年度から始まった「日生劇場公演」は3公演実施する。

今後も2019年度内において公演依頼がある場合には、お客さまのニーズにお応えしながらスケジュールが許す限り受託していく。

なお、熊本震災から3年目にあたる5月12日には「熊本地震復興コンサート」に出演する。一方、オーケストラ業務に支障のない範囲で《室内楽》演奏を実施する。この《室内楽》も＜依頼公演＞に含まれる。

前述、＜主催公演＞、＜依頼公演＞は、公益法人の公益目的事業区分において[1]定期演奏会、[2]巡回演奏会、[3]特別演奏会、[4]移動音楽教室、[5]依頼演奏会の5種類に分類している。

公益法人における公益目的事業区分は以下のとおり。

[1] 定期演奏会（11公演：福岡市9公演、北九州市2公演）

福岡市での

＜定期演奏会＞（9公演）

北九州市での

＜定期演奏会＞（2公演）

[2] 巡回演奏会（12公演：福岡市10公演、北九州市2公演）

福岡市での

＜天神でクラシック＞（4公演）

＜名曲・午後のオーケストラ＞（4公演）

＜第九公演＞（1公演）

＜ニューイヤー・コンサート2020＞（1公演）

北九州市での

＜第九公演＞（1公演）

＜ニューイヤー・コンサート2020＞（1公演）

[3] 特別演奏会（7公演：福岡市6公演、東京都1公演）

福岡市での

＜三大交響曲の夕べ＞（1公演）

＜舞台芸術感動体験事業コンサート（アクロスー万人コンサート）＞（2公演）

＜九響・春のこどもコンサート＞（1公演）

＜吹奏楽ジョイント・コンサート＞（1公演）

＜スペシャル・コンサート＞（1公演）

東京都での

＜東京公演＞（1公演）

[4] 移動音楽教室（3公演）

情操教育を目的とした公演であり、依頼を受け実施する＜依頼公演＞の一つであるが、
 ≪移動音楽教室≫として分類している。

[5] 依頼演奏会（132公演：オーケストラ公演：92公演、室内楽演奏：40公演）

＜参考＞公演数一覧

	2019年度計画	2018年度計画	回数増減
定期演奏会	11回	11回	増減なし
巡回演奏会	12回	11回	1回増
特別演奏会	7回	5回	2回増
移動音楽教室	3回	2回	1回増
依頼演奏会	92回	105回	13回減※
合計	125回	134回	9回減

※ 中学生公演13回減

	2019年度計画	2018年度計画	回数増減
室内楽	40回	40回	増減なし